

「ダイワJFS・青少年サステナビリティ・カレッジ」について

大和証券グループとジャパン・フォー・サステナビリティでは、大学の枠を超えた多くの仲間と学びあう、学生向けの連続講座「サステナビリティ・カレッジ」を2006年10月に開講しました。次代を担う日本の若い世代の意識啓発や行動を促し、社会全体のサステナビリティを高めることを目的としています。

毎月行われる講義では、大学教授、研究者、企業経営者、実務家、NGO／NPO、行政担当者など、各分野の先端で活躍する方を講師に招き、サステナビリティに関連する多岐にわたる事象を、わかりやすく伝え、共に学び合う場を提供しています。

毎年ゆるやかな年間テーマを定め、各々の講座は独立しながらも互いに有機的に関連し合い、4年間でサステナビリティの全体像をとらえられるプログラムとなっています。

1年目：容量・資源とサステナビリティ（2006年10月～2007年9月）
人間社会の営みはすべて、地球の限られた資源・容量の中で行われることを認識し、「もったいない」という考え方で地球規模の問題をとらえます。
2年目：世代間・地域間の公平性とサステナビリティ（2007年10月～2008年9月）
私たちは、過去の世代の遺産を受け継ぎつつ、将来世代に受け渡していかなければなりません。国際間、地域間で、富や資源は公平に分配されているのでしょうか。だれもが搾取されることのない社会づくりを学びます。
3年目：多様性とサステナビリティ（2008年10月～2009年9月）
野生動物の生命の尊さや、人と人との間にある、人種や文化など、さまざまな多様性を価値として尊重することを学びます。
4年目：意志・つながりとサステナビリティ（2009年10月～2010年9月）
よりよい社会を築くには、一人ひとりが思いを持って、他者とつながっていくことが必要です。豊かなつながりを生み出す、柔軟で開かれた対話のあり方、社会参加の意味とノウハウを学びます。

本誌は、このうち1年目12回の講義録をまとめたものです。

詳細はウェブサイトをご覧ください。

<http://japanfs.org/sc>

目次

「ダイワJFS・青少年サステナビリティ・カレッジ」について …… 2

第1回：持続可能性についてのさまざまな考え方 …… 4

深井慈子氏（南山大学総合政策学部教授）

第2回：限られた容量・資源で生きる——食・農・環境から地球の未来を考える …… 10

古沢広祐氏（国学院大学経済学部経済ネットワーク学科学科教授）

第3回：持続可能なエネルギーを目指して——世界の最新動向と日本での可能性 …… 16

飯田哲也氏（環境エネルギー政策研究所所長）

第4回：再生可能エネルギーの飛躍的拡大を狙った都の挑戦 …… 22

谷口信雄氏（東京都環境局総務部企画調整課企画主査）

第5回：資源の循環と持続可能な生産・消費 …… 27

森口祐一氏（国立環境研究所循環型社会・廃棄物研究センター長）

第6回：廃棄物最前線——不法投棄から資源ごみ輸出へ …… 32

石渡正佳氏（千葉県印旛地域整備センター用地課長）

第7回：地球資源としての水問題 …… 37

沖大幹氏（東京大学生産技術研究所教授）

第8回：都市への人口集中とサステナビリティ …… 41

花木啓祐氏（東京大学大学院工学系研究科都市工学専攻教授）

第9回：最も大切な環境とは？——江戸の暮らしに学ぶ …… 46

石川英輔氏（作家・江戸研究家）

第10回：不確実な時代を確実な時代へ …… 49

熊野英介氏（アマタ株式会社代表取締役）

第11回：「もったいない」を生かすビジネス …… 54

竹本徳子氏（株式会社カタログハウス取締役エコひいき事業部長）

第12回：持続可能な社会に果たす金融の役割 …… 59

足達英一郎氏（株式会社日本総合研究所 創発戦略センター 上席主任研究員）

* 本冊子中の内容、講師プロフィールは、すべて講義日時点のものです。